



短命県返上へアイデア

弘大 市民参加し意見交換

健康への興味、関心を持ってもらうための
取り組みなどについて話し合う参加者

弘前大学主催「第2
回対話型ワークショップ」が25
日、弘前市土手町の土
手町コミュニティパー
クで開かれ、弘大や行
政、民間企業、市民ら
約50人が本県の短命県
返上に向けてアイデア
を出し合った。

4月に弘大創立60周
年記念会館内に、CO
I事業について意見交
換する場「フューチャ
ーセンター」を開設し
たことを記念して開い

た。COI事業は、弘
大と県、民間企業が連
携して研究拠点とな
り、脳卒中や認知症の
早期予兆発見、予防法
の開発に取り組むプロ
ジェクト。

ワークショップは3
月に続き2回目、市
民の参加は今回が初め
で、「健康寿命人を増

やすためには」をテ
マに、健診を受けない
人の理由や健康に関心
を持ってもらうための
取り組みについて、8
班に分かれて自由に話
し合った。

参加者からは「健
康づくりの活動に」男
性の参加が少ないの
で、男性のリーダーを
増やしては「小・中
・高・大の健康教育を
するべき」などのアイ
デアが出された。

ワークショップは今
年度あと2回開く予
定。

(成田真矢)